浅井 里江子

ASAI, Rieko

人の興味と愛着

Interest and attachment of people

きょう
TODAY
ミクストメディア
Mixed media
サイズ可変

修了論文：ベストプレイス
The best place

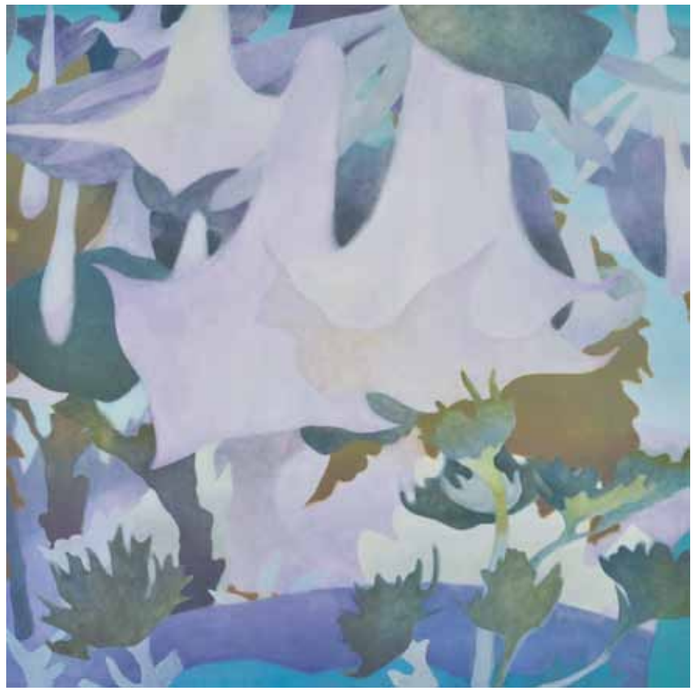
渥見 芽以

ATSUMI, Mei

素直であるために

To be honest

ネリヤカナヤ / Ideal land
油彩 / キャンバス
Oil on canvas
227 × 181 cm



ハイヌミカゼ
South wind
油彩 / キャンバス
Oil on canvas
162 × 162 cm

ホノホシの丘
Hill of Honohoshi
油彩 / キャンバス
Oil on canvas
162 × 162 cm

修了論文：植物と人との生活に基づいた幸福感について

For happiness based on the life of plants and people

遠藤 紗穂里
ENDO, Saori

無宗教の宗教心と自然
Non-religious devotion and nature

祈れる場所
The place of prayer
油彩 / キャンバス、パネル
Oil on canvas and panel
194 × 296 cm

「特定の教団に属していたり、神様を信じていなければ、宗教心というものは生まれないのだろうか、つまり、人間誰もが持ちうる宗教心というのはないのだろうか」p.2

「人口の半数以上の7200万人が無宗教であり、宗教者がマイノリティとなりつつある現代日本において、科学的・論理的思考だけでは限界の問題があるように感じてならない」p.6

「そして、自然へ向かう自身の気持ちの根底には「無宗教ゆえの宗教心」があるのではないかという考えに至ったのである」p.2

「無宗教と 2 つの宗教、それぞれの領域の重なり地点に私は立っている。宗教を信じられない無宗教者でありながら宗教的世界観を希求している私が私である」p.17

修士論文目次

第一章　Introduction
1–1　課題選択の目的と理由
1–2　単語の定義
1–3　自然に対する筆者の思考の経緯

第二章　What to say
2–1　中二病から考える宗教
2–2　聖なるものを求める無宗教の宗教心
2–3　自然崇拝と花鳥風月
2–4　描くモチーフにネットスラング「ネ申」
2–5　崇高さについて

第三章　How to say
3–1　理想郷を描くこと
　　…救いの場としての自然
3–2　具象性
3–3　「バーチャル世界」の現実性と
　　「リアル社会」の非現実性
3–4　今後の課題と展望

修了論文：救いの場としての自然
Nature as a place for salvation

大友 久美子
OTOMO, Kumiko

ママドオル（小説形態）
Mamador（A short novel)

ジョニー / Jonny / 油彩 / 麻布 / Oil on canvas / 116.7 × 910 cm

このクソのような日々/ Same shit, different day. / 油彩 / 麻布 / Oil on canvas / 38×45.5 cm

頭の内に在る、イメージと呼ぶにはひどく頼りないぼんやりした得体の知れないものと、絵や言葉やらの形を得て外に現れるものが一貫していることは一度たりともあったためしがない。イメージになる前のそれは一体何なのか。それは未だに何ものなのか解明できていないし、解明したくともこちらの思惑とは関係なく姿形を変えるので捉えどころがない。

他の人と同じように、わたしという人間もそれなりの歳月を経て、いくつかに分割され、いくつもの層になり、時に断片的で、時に煩雑で、決して少なくはない矛盾を抱えながら、今ここにいる。このようにややこしくて単純ではない経緯の結果として成り立つ、辻褄の合わない行為とバラバラになった思考を意識的に理解して統合することは困難だろう。しかし表現の上においてはそれぞれ異なる流れを合流させることが可能ではないだろうか。まるでドイチェス・エックの河流のように。実際にわたしたちは〝一人〟を生きているわけではない。一人の人間の内には多少の差はあれど様々な人格が幾つも息づいている。初めての他者、初めての他世界と触れた時に今までにみたこともない顔が現れる。自分の内の他人に気づく瞬間だ。

そのことを理解した上で語られる個人的体験、経験、知識、勘に基づく創造世界はおもしろい。そこに漂う現実感は、時に現実をありのままに綴るより現実に近く寄り添う場合がある。意識下か無意識か、わたしという一人間があくまでも個人的に択んだ広い意味を持つ表現も、最終的には一人間の個人的意味合いに訳される。そこで他者に伝わることは何なのか。そしてわたしに還ってくるものは何なのか。それは非常に興味深く今後探求するべく議題である。勝手な予感だけれど、もしかするとそれは〝イメージの前〟を知る大きなヒントになるかもしれない――

絶滅種
One of the extinct species
油彩 / 麻布 / Oil on canvas
19.8 × 29 cm

パパ、どうかそんなに怒らないで　ママ、どうかそんなに泣かないで　彼がロング・ララバイを唄ってくれるのだから
Daddy, please don't look so mad. Mammy, please don't cry so hard. Caus he sings me the long lullaby.
油彩 / 麻布 / Oil on canvas / 194 × 130.3 cm

修了論文：ママドオル（小説形態）―実存主義における現代の絶望と可能性―
Mamador（A short novel) : The despair and potential in existentialism today

川端 遥香
KAWABATA, Haruka

かわいいに隠れた本質
The true nature hidden in “Kawaii”

動物園で暮らすということ
Living in the zoo
フェルト、刺繍糸
Felt and embrioidery thread
83 × 137 cm

動物園で暮らすということ
Living in the zoo
フェルト、刺繍糸
Felt and embrioidery
130 × 135 cm

修了論文：ホッキョクグマと私の関係
The relationship between the polar bear and me

木川 未来

KIGAWA, Miku

絵の中の少女は誰？

Who is the girl in my picture?

リアリティとは / Reality is …
油彩 / キャンバス / Oil on canvas / 145.5 × 145.5 cm

ぶりっこちゃん、君は世界一キュートだ！
Burikko-chan, you are the cutest in the world !
油彩 / キャンバス
Oil on canvas
194 × 194 cm

修了論文：絵の中の少女は誰？
Who is the girl in my picture?

岸 かれん
KISHI, Karen

絵画の物質性および三次元性
The materiality and three-dimensionality of paintings

論文において、現代の急速に発展し続ける携帯電話をはじめとした情報通信技術により、人間が人間としての存在を証明し得る感覚（五感、または身体性）が希薄化し、やがてはその感覚の喪失に繋がることを問題提起とした。私自身その利便性の恩恵を受けながらも、デジタルの画面に並んだ無個性で身体性や物質性のない文字や、デバイスがひとつあれば世界中のものを体験し得る擬似世界に対して、現実感が欠落した違和感を感じ続けていた。それに対して私と言う人間が絵画という表現媒体を通し、どのようなアプローチを持つ事で現代における絵画・美術の必然性を問うことが出来るのかを、現在の制作の根源となったボールペンで文字を書いて紙を埋め尽くすという行為、絵画の三次元性の発見、枯山水を観たときの心の動き、サイトスペシフィックという場所性の重要性、これらを発端とした身体性・物質性・空間性というキーワードをもとに紐解くことを試みた。

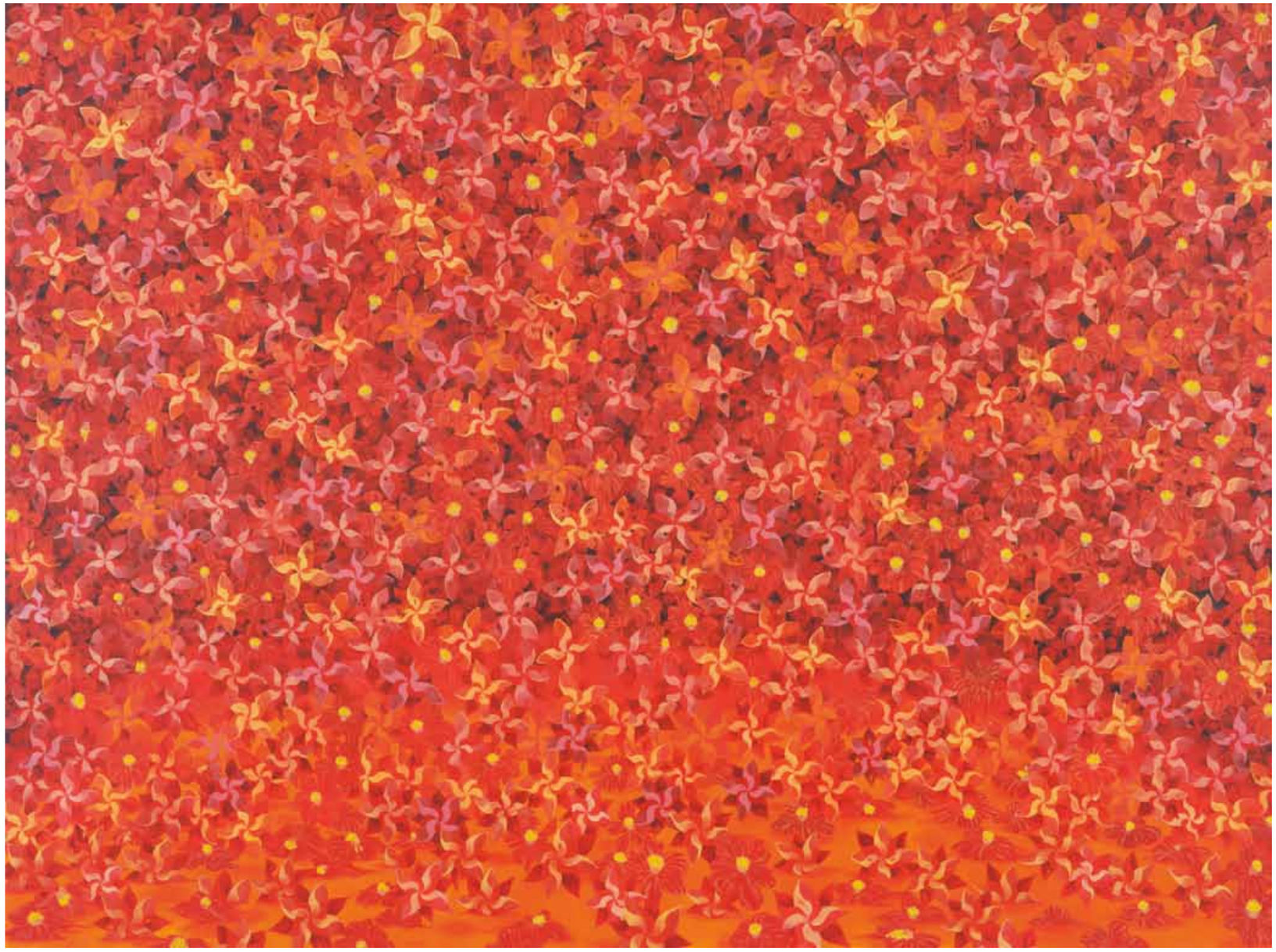
幾夜のひとり言 / The soliloquy of nights
油性ボールペン / 白麻紙
Oil-based ballpoint pen on Japanese white hemp paper
182 × 228 cm

幾夜のひとり言 / The soliloquy of nights
油性ボールペン / 白麻紙
Oil-based ballpoint pen on Japanese white hemp paper
182 × 228 cm

修了論文：現代における理想の芸術体験について / My ideal art experience in our time

栗山 優里
KURIYAMA, Yuri

自分の居場所を探し
I look for my whereabouts



望んで生まれてきたもの
I wish and have been born, but
油彩 / キャンバス
Oil on canvas
194 × 259 cm

修了論文：芸術と社会
Art and society

後藤 直哉
GOTO, Naoya

表象の可視化
Visualization of representation

私は多摩美術大学に進学してから現在に至るまで約6年間絵画を描いてきた。私が絵画を表現のフィールドにしていたのは、言ってしまえば作品をつくる課程における表現の根底にまず絵画という前提があり、それを作品として成立させるための内容の決定という手順をとっていたからだ。テクノロジーの進歩により表現媒体が多様化し、より自由な表現選択が可能になっている現在も、絵画という古典的なフレームが芸術表現の中軸を担っているのは、人々が絵にまだ可能性を感じ、視覚にとって重要なファクターであるからだと思う。
私がこれまで作ってきた作品の根源にあるのは、私たちが生きているこの世界を私たち自身がどのように知覚し、認識し、記憶しているのか。つまり視覚的体験が人の内面に対して及ぼす影響への興味である。カントが「人間が眼前に見ているものは本当にそのようなものなのか、それともそれを見る人間の悟性の構成力によってそう見ているのか」と言ったように、膨大なイメージや情報が氾濫する社会や、他者との関係のなかで翻弄されていく意識は私たちの視覚認識をも揺り動かし、変容させていく。そのような本当の視覚を絵画は描きおこせるのではないか。
絵と対峙するという体験は場合によっては実体験よりもリアリティがある。日常では見慣れた風景や人物、空間や時間など気がつきにくく埋没しているものが、絵によって気がつかされたりする。それはパウル・クレーが「絵を描くということは見えないものを見えるようにすること」だと言ったように、現実世界の対象からは表面に見えていないものを見えるように描いていくということだ。内界と外界をつなぐ手で描く中で、画面に様々な要素がぶつかり合いズレが生じながら、そこから未知のものが出現し、思いもよらない飛躍が起き、違うことに接続されたりするところにも絵画の魅力を感じる。
リ・ウファンは「絵を描くということは心の中のものと外にあるものとの切実な関わりとして、言語を超えた対話であり交流である」と言っている。そのような内と外のものが出会う中間地点の場が絵であり、そこに導くのが眼であり手なのである。

表象は事物への認知によって記憶となるイメージの内的な再構築であり、私はそれを再び手で描きおこすことで視覚化していく。その内的なイメージは外部とのつながりを持つ身体により他者性を孕んだ半透明な絵画として私たちの前に現れる。この世界に日々起きていることや我々の無意識によって見逃され日常に埋没されていくことに眼差しを向け、絵画という二次元と三次元の間に存在する曖昧な物体に、私たちの住んでいる世界や他者との関わりによって生まれる表象を投影していく。それこそが私が表現しようとしてきたことであり、絵で表現していきたいことなのである。

修了論文：表象の可視化
Visualization of representation

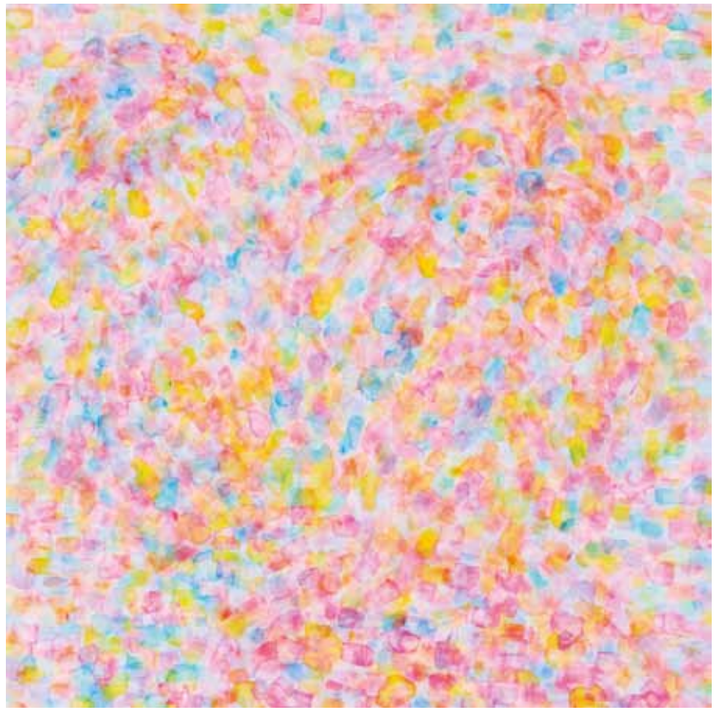
意識の移り変わり
Transition of consciousness
油彩 / キャンバス
Oil on canvas
227 × 227 cm

建設中
Under construction
油彩 / キャンバス
Oil on canvas
192 × 162 cm

後藤田 絢子
GOTODA, Junko

色彩を表現するということ
Expressing color

続くよ、どこまでも
Continue forever
アクリル / キャンバス
Acrylic on canvas
194 × 260.6 cm



今 できること / Can do it now
アクリル / キャンバス / Acrylic on canvas / 130.3 × 130.3 cm

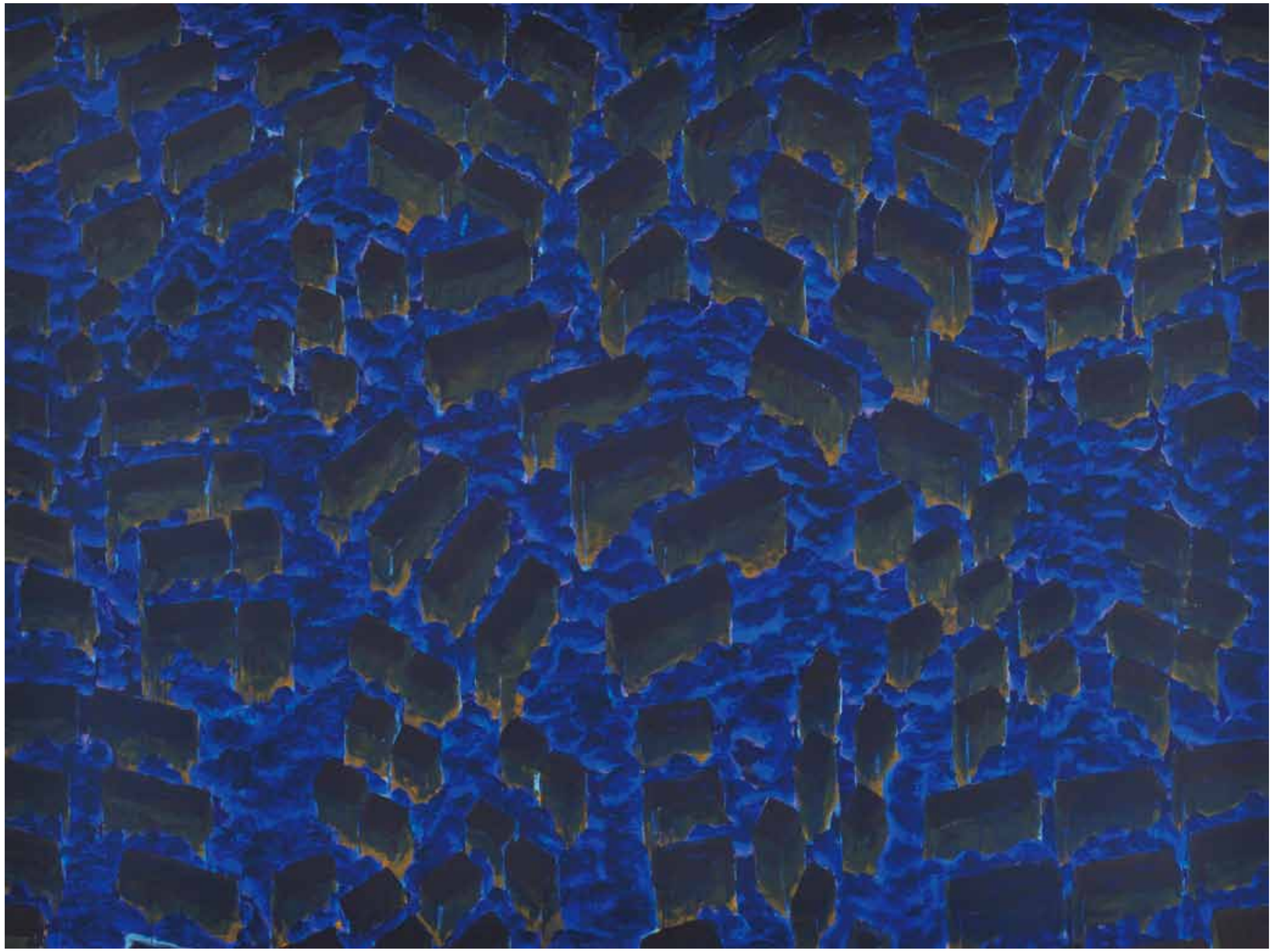
Link-ring
アクリル / キャンバス / Acrylic on canvas / 97 × 194 cm

修了論文：色彩を描く―自分の色を求めて―
I describe a color : in pursuit of my color

坂本 光孝
SAKAMOTO, Mitsutaka

自然と人工
Nature and manmade

修了論文：建物
Building



団地 9
Development 9
アクリル / キャンバス
Acrylic on canvas
270 × 360 × 15 cm

椎名 遥
SHIINA, Haruka

現代の宗教画
Modern religious painting

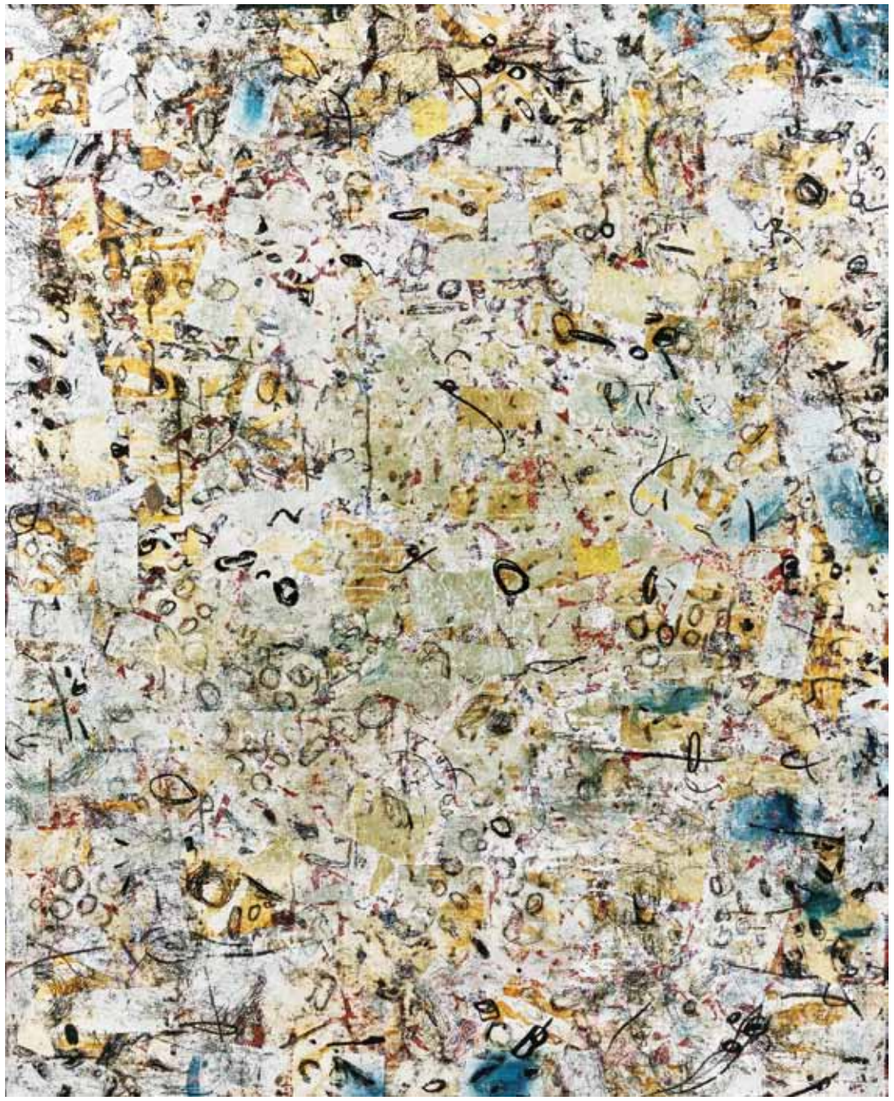
私は「現代の宗教画」という研究テーマで制作に取り組んでいる。研究目的は、現代社会（日本）における宗教画の意義を追求することだ。

私はキリスト教と日本の宗教の二つの宗教観のなかで生きてきた。キリスト教を信じ、その教理に従って行動する自分と、すべてのものに畏敬の念をもって接する日本に土着してきた信仰が内在しているのだ。この混在する二つの宗教を対峙させることで、「現代の宗教画」とは何か追求している。

Canaan—約束の地—
Canaan—Land of the Covenant—
油彩 / キャンバス
Oil on canvas
162.1 × 242.4 cm

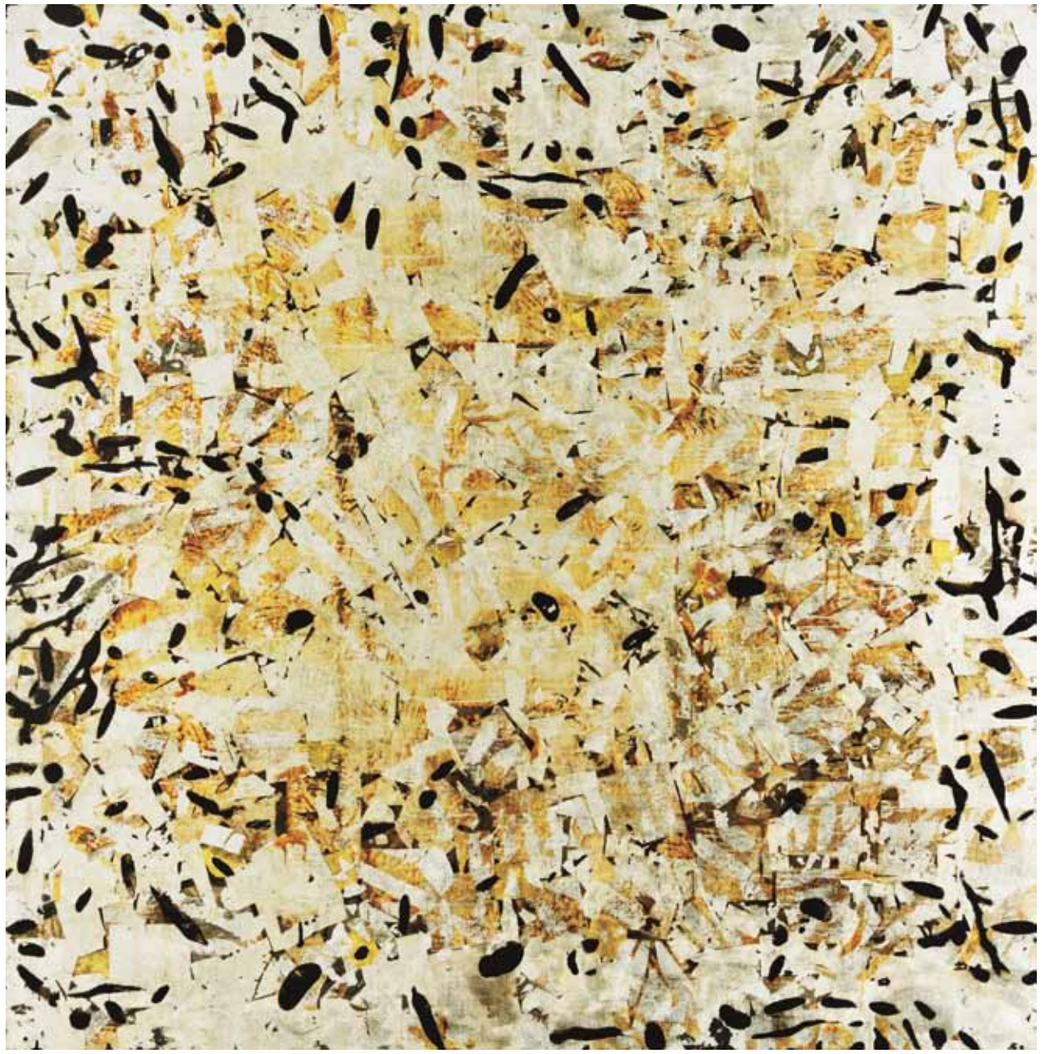
宋 奕姝
SONG, Yeon Joo

海の中の世界とその生物の表現
Research and representation of the sea world and its creatures



自分の潜在意識と無意識がひらかれた海の中の世界 II
My subconscious and unconscious are the open sea world II
ミクストメディア / キャンバス / Mixed media on canvas / 130 × 163 cm

私は「自分の潜在意識と無意識の世界がひらかれた海の中の世界」ということに着目し、神秘的な空間とその中で数多くの生物体がそれぞれの形象（表面の質感、色、形、模様など）を 維持しつつ、水中の生態系を構成するものとして彼らが営むストーリー（ある種の「物語」）に基づく創作活動を行っている。



自分の潜在意識と無意識がひらかれた海の中の世界 I
My subconscious and unconscious are the open sea world I
ミクストメディア / キャンバス / Mixed media on canvas / 163 × 163 cm

修了論文：海の中の世界とその生物の表現―平面絵画の分析の考察―
Research and representation of the sea world and its creatures : Analysis and consderation of plane painting

髙尾 美奈
TAKAO, Mina

境界と行き交い
Boundaries and Exchanges

「自分にとっての美術は何であるか」について、日々考察してきました。自問自答の末、美術とは「A と B、二つの異なる物事の境界を発見し、その境界を『境界』と認識して、さらにその向こう側と思考の上で行き来する手段の一つ」という仮説を立て、日常の些細な人と人との関係を抽象的に表現することを目指しています。

いきます
I'm coming
油彩 / 紙
Oil on paper
121 × 273 cm

修了論文：私的芸術論 2009–2014
Individual art theory 2009–2014

中野 由紀子

NAKANO, Yukiko

「おもいだす」ことを主題とした絵画制作

The artworks about “remembering”

通学路（夕方）
School route（evening）
油彩 / キャンバス
Oil on canvas
194 × 486 cm

修了論文：おもいだす―自身の作品について―
Remembering : About my artworks

箱崎 理恵

HAKOZAKI, Rie

身近なものを創造する

Creating something close to us

池
Pond
アクリル、石膏
Acrylic and gypsum
45 × 45 × 9 cm

BOX
アクリル、石膏
Acrylic and gypsum
32 × 45 × 9 cm

私と風景
The scene and I
油彩 / 板
Oil on board
181.1 × 227.3 cm

修了論文：イメージからつくること
Creating from images

橋口 美佐

HASHIGUCHI, Misa

身体中の世界を描くために

I draw the world in my body

世界の隙間から怪獣のバラードが聞こえる
"Ballade of a monster" is heard from a gap of the world
アクリル / キャンバス
Acrylic on canvas
259 × 388 cm

修了論文：世界は脳の中にある
The world is in your brain

星野 薫
HOSHINO, Kaoru

「ハイ」と「ロー」を同じ単位へと連れ出す
Equality of HIGH and LOW levels

左　ラック 1
Rack 1
鋼管、合皮、アクリル絵具、ロープ、結束バンド、ゴム紐、S カン、ハトメ
Steel pipe, synthetic leather, rope, cable tie, rubber strip, S hook and eyelet
182.6 × 93.8 × 4 cm

左　ラック 2
Rack 2
ステンレスパイプ、布、アクリル絵具、結束バンド、吊り下げ金具、ハトメ
Stainless steel pipe, fabric, acrylic, cable tie, hanging hook and eyelet
181.1 × 81 × 3 cm

右　ラック 3
Rack 3
鋼管、布、アクリル絵具、転写シート、結束バンド、吊り下げ金具、アクリル板
Steel pipe, fabric, acrylic, transfer sheet, cable tie, hanging hook and acrylic plate
171 × 94 × 5 cm

下　無題
Untitled
合板、ウレタン塗料、ネクタイ、バンダナ
Plywood, urethane coatings, necktie and bandana
41 × 91 × 182 cm

修了論文：アホらしい表現についての覚え書き
Notes on hilarious art

堀田 千尋

HOTTA, Chihiro

もの、言葉、人、その存在と関係性

Objects, words, human, their existence and relationships

ナイロン たわし / Nylon scrubbing brush
ナイロンたわし、綿、糸、木、映像 / Nylon scrubbing brush , cotton, cotton thread, wood, video / サイズ可変

モップ / Mop / モップの糸、モップの柄、バケツ、糸、ナイロン布、綿、映像
Thread of the mop, handle of the mop, cotton, bucket, cotton thread, nylon cloth, cotton, video / サイズ可変

修士論文で私は、「ぬいぐるみ」について論じた。４年前から「縫い包み」という手法を用いて制作を行ってきたが（縫って詰め物をしたものを「縫い包み」と表記することとする）、「ぬいぐるみ」という存在を、一度見つめ直そうと思ったことがきっかけであった。

その論文で私は、「もの」と「言葉」、そして「人」の関係性に興味を持った。「ぬいぐるみ」というこの言葉１つでも日本語と英語ではニュアンスに微妙な差があり、また、見る人によっても「ぬいぐるみ」だと認識する人やそうではないと感じる人もいる。それらは、そのものを認識する人の知識や人生経験からきているものであるので、一般的な認識はあるものの、人によって差異があるのは当然である。「もの」と「言葉」は、ほどけないほど固く結びつけられているように見えて、結びつけているものは案外脆弱なのかもしれない。

私のここ最近の制作では、身近な素材に目を向けることが多かった。修了制作で私は、「モップ」と「ナイロンたわし」という作品を制作した。

「モップのような犬」という言葉を耳にすることがある。それはモップのように長く、まとまった毛束を持つ犬のことを指している。では逆に、モップが犬のような姿をしていたら、それは犬だろうか、モップだろうか。最初はモップの糸で作った犬の縫い包みの姿をしている。それはモップではない。次にそれは中の綿を抜かれ、モップの柄を取り付けられ、掃除道具としてのモップの役割をするものとなる。それはモップである。最後に、汚れたものに綿を入れ直して最初の形に戻す。形は最初のものに近いが汚れたそれは最初のものとは明らかに違うものである。モップであり、犬であり、縫い包みであり、そのどれでもない。

「ナイロンたわし」もまた、スポンジの裏についている掃除道具である。私はこれを、きれいにするものという位置づけで使用している。ナイロンたわしでできた犬は、足上げおしっこ、つまり、マーキング行為をした姿である。飼い主の躾や去勢でこういった行為をしない犬もいるが、それでも散歩中の犬が、草むらや電柱や家の塀などにマーキングをするところを見かけることはある。道具自身が汚れることで何かをきれいにするもので、何かを汚す行為をする姿を作る。そしてそのナイロンたわしでできた犬で、何かを汚す姿でありながら錆や焦げを落としてきれいにしていく。ナイロンたわしであり、犬であり、縫い包みであり、そのどれでもない。

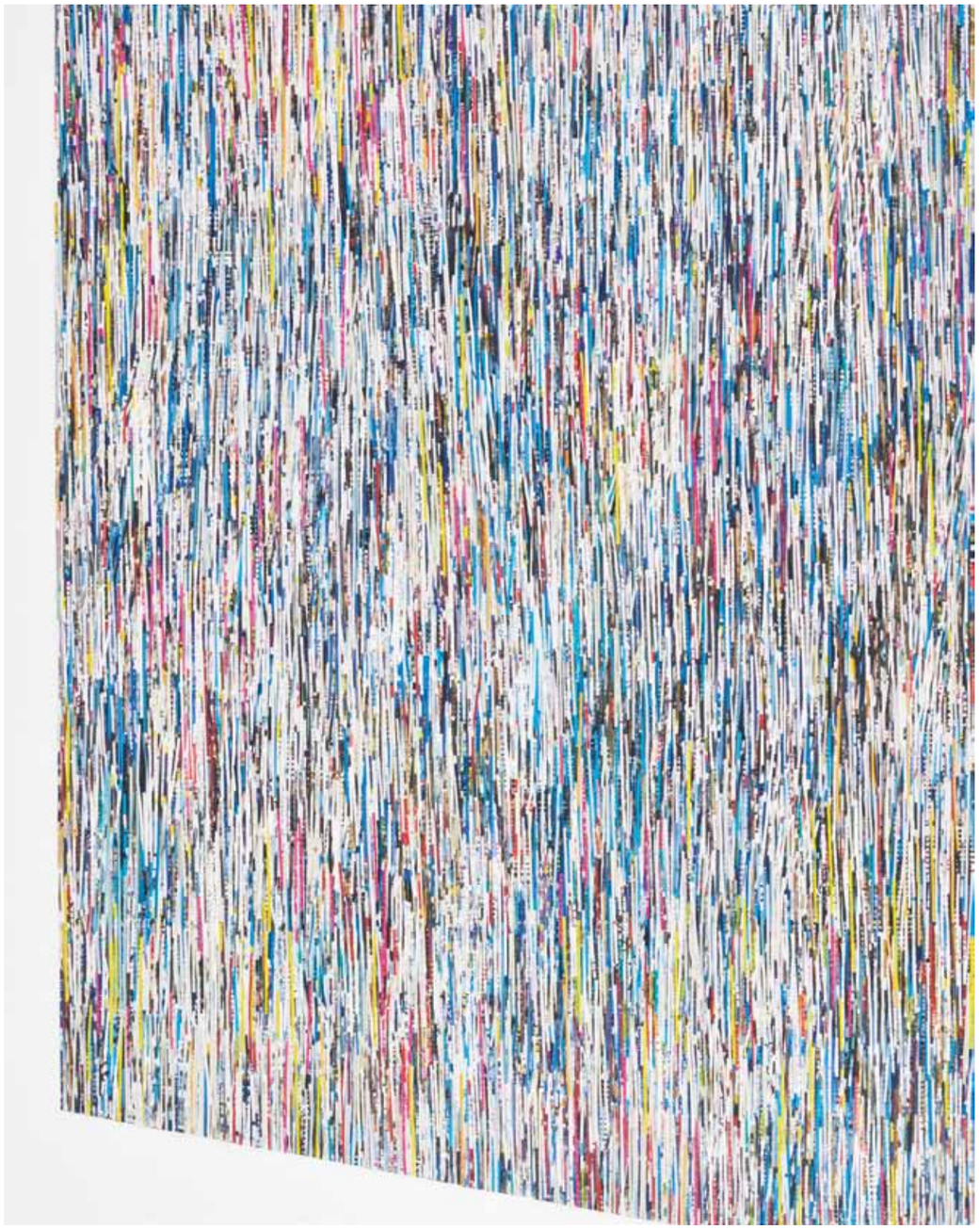
それが「何である」と認識するのは、作品を「みる」という関わりを持ったその人自身である。

修了論文：ぬいぐるみか？ / Are they stuffed toys ?

宮里 紘規
MIYAZATO, Hiroki

制作と身体
Creation and body

WALL―後悔―
WALL : giddiness
ミクストメディア
Mixed media
145 × 112 cm



WALL
ミクストメディア / Mixed media / 162 × 130 cm

修了論文：生きるための制作―反復・集積・変容―
Creation for living : Repetition・Accumulation・Transformation

谷藤 遥
YATO, Haruka

私の中の原初的なもの
Primordial emotions inside of me

上　私は300年前の私
I of 300 years ago I
油彩 / キャンバス
Oil on canvas
209 × 300 cm

右上　タイルの物語
Story of tile
油彩 / キャンバス
Oil on canvas
175 × 130 cm

右下　イルカの恩返し物語
Story of the dolphin giving back
油彩 / キャンバス
Oil on canvas
194 × 162 cm

左上　備前くらやみ人形 / Bizen darkness doll
陶 / Ceramic / 18.4 × 12.9 × 6.8 cm

左中　備前の人形 / Bizen doll / 陶 / Ceramic

左下　備前の墓守り / Grave keeper of Bizen / 陶 / Ceramic

右上　備前くらやみ人形 / Bizen darkness doll
陶 / Ceramic / 19.5 × 12 × 9.5 cm

右中　備前の遺影 / Bizen portrait / 陶 / Ceramic

右下　備前の生活雑貨 / Bizen pottery / 陶 / Ceramic

修了論文：原始美術と障害者美術にみられる創造の起源
Origin of creation found in primitive art and disability art

山下 祥世

YAMASHITA, Sachiyo

つかみどころのないものを描写する試み

Attempt to portray the elusive things

潮騒
Sea roar
アクリル / キャンバス
Acrylic on canvas
181.8 × 227.3 cm

言葉のない世界
The world without words
アクリル / キャンバス
Acrylic on canvas
194 × 259 cm

修了論文：つかみどころのないものを描写する試み
Attempt to portray the elusive things

山田 美織
YAMADA, Miori

物語の発生について
The occurrence of a story

左　**Night**
ミクストメディア
Mixed media
サイズ可変

右　**Rainbow（bridge）**
油彩 / キャンバス
Oil on canvas
27.3 × 22 cm

Raibow（star）
油彩 / キャンバス / Oil on canvas / 100 × 80.3 cm

Over the rainbow
油彩 / キャンバス / Oil on canvas / 130 × 162 cm

修了論文：物語の発生について
The occurrence of a story

横山 明美
YOKOYAMA, Akemi

私は私という存在を超えた何かになろうとしている
I'm going to become something beyond my existence

根源への回帰
Growing roots of reminiscence
油彩 / キャンバス
Oil on canvas
259 × 388 cm

修了論文：根源への回帰
Growing roots of reminiscence

岩本 健司

IWAMOTO, Kenji

かたちからのことば

Words of shapes

閉じ込められた時―流動
Confined time : flow
油彩 / キャンバス
Oil on canvas
130 × 162 cm

存在がつくり出す物語
The story of presence making
油彩 / キャンバス
Oil on canvas
130 × 162 cm

かたちからのことば
Words of shapes
油彩 / キャンバス
Oil on canvas
162 × 194 cm

すでにそこに時はある
There is a time already
油彩 / キャンバス
Oil on canvas
97 × 162 cm

経時―方向 かたちをくれた人
Chronology—The person who gave me a shape and a direction
油彩 / キャンバス
Oil on canvas
72.7 × 91 cm

修了論文：ボナールによる絵画的自己形成
Building myself graphically in the style of Pierre Bonnard

野田 琢

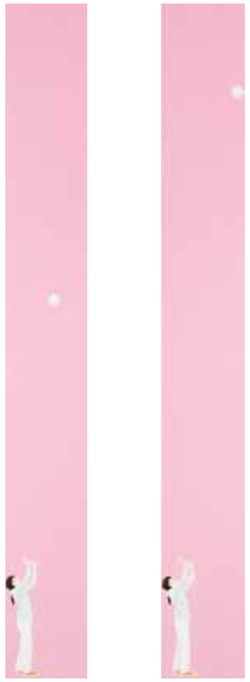
NODA, Takuma

余白の有用性について

The importance of margin

だいがどっかいった
Oh, where is the stool ?
油彩 / キャンバス
Oil on canvas
227.3 × 181.8 cm

ありがとうとか、こんにちはとか、さようならとかいろいろ
Just like a thank you or a welcome or a goodbye
油彩 / キャンバス
Oil on canvas
130.3 × 130.3 cm 2 点



たかーとか、たっかーとか、たけーとかいろいろ
So high ! Oh high ! Ohh, too high !
油彩 / キャンバス
Oil on canvas
183 × 23 cm

修了論文：雪村周継「瀟湘八景図屏風」と禅芸術の七つの性格
"Eight views of Xiaoxiang figures on a folding screen" by Shukei Sesson and "Zen art" of the seven personalities